

## 【試合（得点）経過】

7月7日 予選リーグ（第一試合） vs 広島フォーティーズ（広島）

広島チームは、悪天候の為新幹線が運休となり藤枝に到着できず、MITAKAの不戦勝となる。

7月8日 予選リーグ（第二試合） vs 焼津飛魚（静岡）

開始からMITAKAのペース、10分過ぎまでに10本ちかくのシュートを打つが、なかなかゴールを奪えない。15分過ぎには焼津もペースをつかみ始め小康状態へ。

20分、MITAKAの左サイドにボールを入れられ、そこからセンタリングを上げられると、逆サイドのマークが甘くなっていてフリーでヘディングを許す、これがゴールに吸い込まれ得点を許す。

MITAKAは後半に入ると長身FW川口選手をトップに入れ、ボールを集めだす。

しかし、35分にゴール前の混戦からGKの頭を越えるボールを入れられあわや2失点目かと思われるピンチを招く。これはDFが必死のクリアでかき出しノーゴールの判定。

その後、MITAKAは怒涛の攻撃を見せるが、得点を奪えず終了の笛が鳴り、0-1の惜敗となった。

7月8日 予選リーグ（第三試合） vs 室蘭シニア（北海道）

両者暑さと疲労のためか、運動量が落ちた静かな立ち上がりで試合が開始される。

12分GKからのボールが前線のFW大谷選手に渡ると、そのままドリブルで右サイドを駆け上がり、角度の無いところからシュート、見事ゴールを奪う。

その後は、酷暑の状況下で互いの運動量が極端に落ち込む。38分、MITAKAはDFの裏を取られ、GKとの1対1の状況を作られ、あわやという場面があったが、これは相手FWのシュートミスに助けられる。

その後、MITAKAはボールキープに徹してゲームをコントロール、1点を守りきりゲームは終了。

他会場で行われていた、焼津 vs 広島が引き分けたため、勝ち点6で見事決勝トーナメントの準決勝戦への進出が決まった。

MITAKA	2勝1負	勝ち点6
焼津	1勝2分	勝ち点5
広島	1勝1分1敗	勝ち点4
室蘭	1分2敗	勝ち点1

#### 7月9日 準決勝 vs 兵庫サッカークラブ

開始4分、兵庫は左タッチライン際からドリブルで持ち込みグランダーのセンタリングからシュートを放つがゴール左に外れる。対するMITAKAは5分、右からのセンタリングをダイレクトシュートするがクロスバーに阻まれる。更に9分には兵庫CBの裏へ抜け出しループシュートを狙う。ペナルティーエリアを飛び出したGKは手でボールを処理（GKは警告）。その後MITAKAのペースとなり惜しいシュートが放つが得点にはならず前半を終わる。

後半2分、兵庫がミドルシュートを狙うがGKが難なくキャッチする。MITAKAも8分のミドルシュートはGKに阻まれる。そして10分、MITAKAは中盤で上手く繋ぎ右サイドへ展開しドリブルからのセンタリングにゴール前に詰めたMF寺本選手がヘディングで決める。その後は疲れが出た兵庫を上手くかわし、1-0で勝利した。

#### 7月9日 決勝 vs 中津OBサッカークラブ（大分）

MITAKAと大阪を破った中津OBサッカーチームの対戦となった決勝戦。開始2分、中津は左ゴールライン際からのFKからゴール正面へのパスをシュートするがクロスバーを越える。MITAKAは13分ロングシュートを放つが惜しくもクロスバーに阻まれる。16、18、20分にはミドルシュートを放つが何れもGKのセーブに阻まれる。MITAKAが押し気味に前半を終了する。

後半4分、中津がペナルティーエリアへドリブルで持ち込みMITAKAのDFと接触転倒これがファウルとなり、ここでえたPKを中津が決めMITAKAは1点を先行される。この後MITAKAは積極的に攻める。12分にはCKからのヘディングシュートがクロスバーをわずかに超える。中津は上手く時間を使っていくが、MITAKAはアディショナルタイムとなって更に攻撃の手を強め終了間際に中央付近からのロングパスをFW大谷選手がヘッドで合わせ同点とする。

試合は1-1からPK戦となった。先行のMITAKAは2人が外し、4人全員が決めた中津が優勝、MITAKAは準優勝となり大会は終了した。

記録： シニア連盟 常任委員 大槻秀樹